

「帆船日本丸、横浜みなと博物館行幸啓記録」 ～平成 29 年 7 月 17 日（祝）海の日～



登舷礼を御覧になられている両陛下

公益財団法人 帆船日本丸記念財団

帆船日本丸への行幸啓を受けて

公益財団法人 帆船日本丸記念財団

帆船日本丸は、1930（昭和5）年の建造以来、文部省航海練習所（戦後は運輸省航海訓練所）の練習船として54年間にわたり日本の船員教育を担い、11,500人の船舶職員を送り出し、日本の海運を支えてきました。

また、戦中は緊急物資輸送、戦後は帰還輸送や遺骨収集航海など社会的にも大きな役割を果たしてきました。

1984（昭和59）年の引退後も、横浜港において、青少年への海洋教育や総帆展帆などを大勢のボランティアの協力により33年間継続し、海事思想の普及に貢献して来ました。

2015（平成27）年には日本丸の展帆ボランティア団体が国土交通大臣から海事功労者として表彰されました。

また、日本丸は希少な戦前期建造の大型帆船であり、保存状態も良く、建造当時の造船技術をよく伝えていることから、本年3月に、国の重要文化財指定の答申を受けました。

この答申を受け、横浜みなと博物館において7月15日（土）から9月3日（日）まで、建造以来87年の航跡を様々な資料や展示で紹介する企画展「国重要文化財指定記念 帆船日本丸の航跡」を開催しております。

横浜市では、市民の皆様方に愛され続けてきた帆船日本丸の建造100年を目指して保存事業に取り組んでいるところであります。

今回の行幸啓により、これまでも日本丸を支えていただいたボランティアの皆さんがより一層の誇りと希望を持って、ボランティア活動に取り組んでいただけの契機となるとともに、市民をはじめ多くの方々の帆船日本丸保存事業に向けたご理解とご支援の機運がさらに高まることを期待しております。

7月17日（月）神奈川県行幸啓（海の日）のうち当財団における
両陛下のご日程は以下のとおりです

天皇皇后両陛下ご挨拶 神奈川県知事，県議会議長，県警本部長，横浜市副
市長，市会議長

天皇皇后両陛下ご覧 帆船日本丸登しょう礼

天皇皇后両陛下ご覧 帆船日本丸総帆展帆(そうはんでんぱん)前半

天皇皇后両陛下ご覧 企画展「国重要文化財指定記念 帆船日本丸の航跡」

天皇皇后両陛下ご覧 帆船日本丸総帆展帆(そうはんでんぱん)後半

天皇皇后両陛下ご覧 帆船日本丸登舷礼(とうげんれい)

天皇皇后両陛下ご懇談 (公財)帆船日本丸記念財団会長，ボランティア代表等

財団職員及び100人の展帆ボランティアによる奉送

御 着

10:13



御到着直後の両陛下にご挨拶する先導役の帆船日本丸
記念財団金近会長



両陛下を横浜みなと博物館正面玄関でお出迎えする黒岩神奈川知事、佐藤神奈川県議会議長、
島根神奈川県警本部長、平原横浜市副市長、松本横浜市会議長

登しょう礼 10:30~10:38



バウスプリット先端のリーダー（櫻井孝彦さん）の号令「脱帽」「海の日おめでとう」に続いて全員で三唱しました

飯田日本丸船長による「登しょう礼用意」「登れ」の号令で展帆ボランティアの皆さんは一斉に動きます。

続いて「渡れ」の号令でヤードに移動します。



テントから出られ登しょう礼を御覧になる両陛下

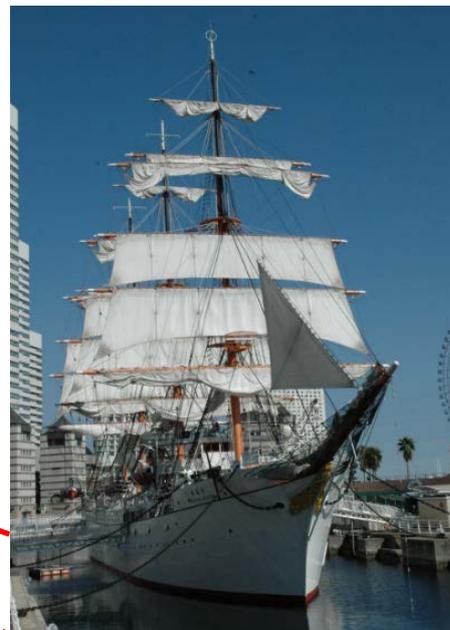


総帆展帆前半 10:40~11:02



解帆作業
ヤードに括り付けて
いる紐を解く作業を
開始します。

まず、最初に船首の3枚の三角の帆のうち一番下の帆（インナージブ）を広げ、次に下から二番目の帆（ロワートップセイル）、下から三番目の帆（アッパートップセイル）を広げます。



両陛下は、当初は各マストの2枚目の帆が広げられた段階で企画展を御覧になる予定でしたが、3枚目の帆が張られるまで熱心に御覧になっていました。

企画展「国重要文化財指定記念 帆船日本丸の航跡」 11:12~11:22



企画展：「国重要文化財指定記念 帆船日本丸の航跡」
帆船日本丸が国の重要文化財に指定されることを記念して、建造以来 87 年の日本丸の航跡を重要文化財に指定された図面類や航海日誌、機関長日誌をはじめ様々な資料で展示、紹介

両陛下に企画展の内容をご説明する志澤館長



日本丸の54年間の航路図を熱心に御覧になる両陛下

日本丸の南方八島遺骨収集航海で帰港した島々は、両陛下が2年前に慰霊で訪れ感慨深げ。その記事の下に、同年(昭和28)年3月に渡英時に乗船されるプレジデント・ウイルソンを宮内庁関係者が下検分に訪れたとの記事があり、その旨を説明すると「そうでしたか」と懐かしそうでした。



日本丸(二代目)の進水式の写真に足を止め、両陛下は懐かしそうに御覧になっておられました



総帆展帆後半 11:25~11:29

両陛下には、展帆後半はこの状況から御覧いただきました。



船首の3枚の三角の帆のうち真ん中の帆（アウトージブ）、一番上の帆（フライングジブ）を広げます。

最後に一番下の一番大きな帆を広げ展帆は終了です。当日は、天候にも恵まれ無事29枚すべての帆を予定どおり広げることができました。



両陛下には、横浜みなと博物館1Fロビーで展帆の様子をご覧いただきました。

登 舷 礼 11:31~11:32



飯田船長の「登舷礼用意」の号令で展帆ボランティアの皆さんは持ち場へ移動、両陛下が屋外に出られ、お立ちになったところで「敬礼」の号令がかけられました。

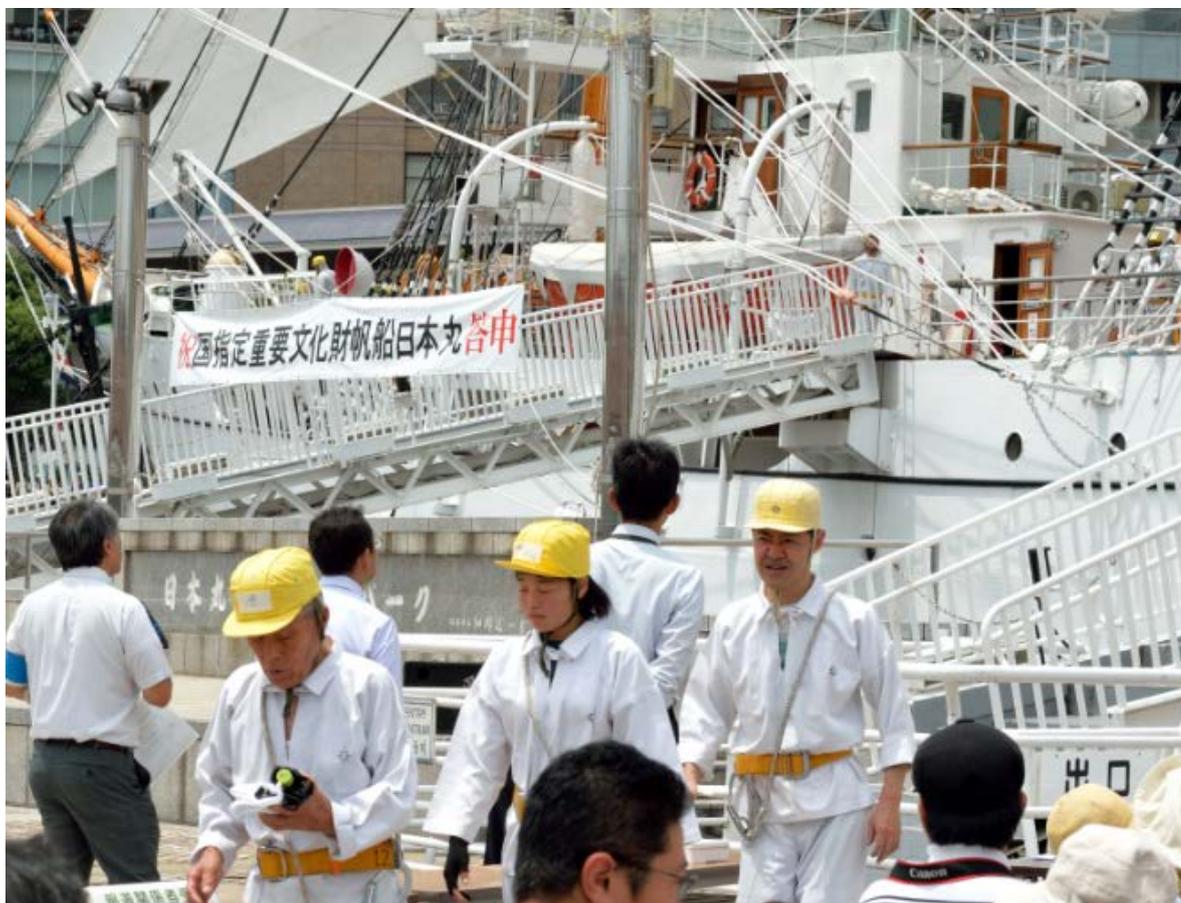


登舷礼を受けられ展帆ボランティア
に笑顔で手を振られている両陛下



登舷礼を終えたボランティアから「陛下来てくれてありがとう」と大きな声で感謝の言葉をおかけし、両陛下が手を振ってお応えする場面もありました。

展帆ボランティア代表との懇談会 11:35～11:50



両陛下との御懇談会に向かう展帆ボランティア（かもめ会）代表の皆さん

右から かもめ会代表 江澤克和（えざわ よしかず）さん
最年少ボランティア 中川歩美（なかがわ あゆみ）さん
最年長ボランティア 原 敏美（はら としみ）さん

《御懇談会：陛下のボランティアへの励ましのお言葉》

- ①日本丸のボランティアをいつから始められたのか？そのきっかけは？
- ②マストに上がって怖くありませんでしたか？
- ③今日は、ポジションはどこですか？

といったご質問に加え

- ①これからも頑張ってください
- ②お体に気を付けて、これからも続けてください
- ③安全に気をつけてください

など展帆ボランティア代表に暖かい励ましのお言葉がありました。

当日のお客様の状況

規制線を設けたこともあり、船首側歩道と横浜みなと博物館屋上北回廊側にお客様が集中しました



船主側歩道、動く歩道、そして大階段上で大変多くのお客様が両陛下をお見送りしました



奉送 11:54~

お帰りの際、横浜みなと博物館
正面玄関で一般観覧者の皆さん
にお手を振る両陛下



財団職員と100人の展帆ボランティアで両陛下をお見送りしました。



帆船日本丸が国重要文化財に指定される
節目の年の「海の日」に両陛下にお
越しいただき大変光栄に存じます。
また、当日は猛暑の中多くのお客様に
ご来館いただき感謝申し上げます。

